

1. 未来への希望を育む子育て・教育について

(1) 公立幼稚園の充実について

- ① 三歳児保育の早期の実施について
- ② 統廃合に伴うガイドラインの策定について
- ③ 統廃合に伴う保護者の送迎の為に駐車場の確保について

【答弁】

1. 未来への希望を育む子育て・教育についての(1)についてお答えいたします。

まず、①については、幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、早期から幼児教育を実施することは大切なこととあります。また、近年、増加傾向にある支援を必要とする幼児については、インクルーシブ教育の視点に基づいた保育を早くから実施し、一人一人の教育的ニーズにあった適切な支援を通常のクラスで受け、その個別の支援内容を小学校へ引き継いでいくことが重要であることから、公立幼稚園の果たす役割は大きいと認識しております。

しかしながら、三歳児保育の早期実施に向けましては、新しい教育課程の編成や幼稚園の統廃合による教員の確保、私立幼稚園との共存共栄等、解決していかなければならない課題もございます。

公立幼稚園での三歳児保育の早期実施につきましては、「幼稚園・保育所のあり方基本方針」策定の中で検討してまいりたいと考えております。

次に②と③については、関連いたしますので合わせてお答えいたします。

統廃合に伴うガイドラインにつきましては、統廃合後に遠方から通園しなくてはならなくなる園児の緩和措置等を盛り込む必要があると考えられます。

現在、市内の多くの公立幼稚園は、昭和40年代、又はそれ以前の人口急増期に建設された施設であり、駐車場は確保されていないことから、原則自転車や徒歩による送迎・通園をお願いしているところです。

しかしながら、通園する園児の状況によっては、自動車での送迎が必要な場合もあり、三歳児保育の実施や統廃合となれば、益々、送迎における施設環境の整備が課題になると予想されますことから、子どもたちの安全面を最優先に考えながら、保護者の自動車送迎に対するニーズ、並びに駐車場の確保や送迎バスの導入による費用対効果等も検証しながら、送迎における施設環境の整備について研究・検討してまいります。